

Joruri CMS 2020

CMS機能要件に対する
JoruriCMS2020の
対応状況

2024-12-21 第一版
サイトブリッジ株式会社



自治体サイトプロポーザルでのCMS機能要件

1	CMS
2	システム構成
3	SSL通信
4	管理画面
5	ページ・ファイル検索
6	ログ・履歴管理
7	組織管理
8	ユーザー管理
9	公開画面
10	画面の印刷
11	アクセシビリティ
12	ナビゲーション
13	サイトマップ
14	サイト内検索
15	外国語翻訳
16	RSS出力
17	緊急表示
18	お問い合わせ・アンケートフォーム
19	目安箱
20	共有ライブラリ（素材集）
21	記事作成
22	プレビュー
23	承認フロー
24	カテゴリ
25	インデックス（記事一覧）
26	固定ページ
27	施設マップ
28	イベントカレンダー
29	FAQ機能
30	バナー広告
31	スライダー
32	カウントダウン
33	チャットボット
34	オープンデータ
35	メールマガジン
36	デジタルブック
37	サブサイト
38	アクセス解析
39	アクセスランキング
40	データ移行
41	リンクチェック
42	手続き確認
43	施設予約状況表示
44	掲示板
45	会員機能
46	プラグイン

1. CMS (1)

■ セキュリティ

IPA 情報セキュリティ推進機構が公開している「安全なウェブサイトの作り方 第7版」セキュリティチェックシートに記入し提出すること。

また、「根本的解決」の項目で未対策となっている項目が存在しないこと。ただし、システム上やむを得ない理由がある場合は備考欄に明記すること。

■IPA 情報セキュリティ推進機構 安全なウェブサイトの作り方
<https://www.ipa.go.jp/security/vuln/websecurity.html>

IPA 情報セキュリティ推進機構が提供している「ウェブサイトのセキュリティ対策のチェックポイント20ヶ条チェックリスト」のチェックを全てクリアすること。

<https://www.ipa.go.jp/security/vuln/websitecheck.html>



J-LISが提供している「脆弱性セルフ診断ツール」によるチェックを全てクリアすること。



■ 導入実績

導入するCMSは、過去3年以内に市町村、国、都道府県等において導入実績がある製品であること。

■ ライセンス料

ページ数やテンプレート数、ユーザー数などの増加により、ライセンス料が変動しないこと。

■ ソースコード

自治体ホームページは公共性・公益性を考慮し、またバンダーロックインや次期リニューアル時の仕様開示の点からオープンソースソフトウェアであることが望ましい。

クローズドソースソフトウェアを使用する場合はオープンソースソフトウェアに比べて機能、拡張性、セキュリティ、ライフサイクルコスト、サポート条件の面などの優位性またはそれを除外する正当な根拠を企画提案書に記載すること。

セキュリティ対策、改ざん防止を考慮し、一般にソースが開示されたオープンソースCMSではないこと。

1. CMS (2)

■ リリースサイクル

リリースされてから3年以上が経過し、その間継続的にバージョンアップが行われていること。

■ サポート

開発元のサポートが受けられること。

■ HTML規格

生成されるコンテンツデータ（ページ）については、HTML5以上の規格に準拠し、Web標準に配慮した文書構造を持つこと。

■ 文字コード

UTF-8の文字コードに対応できること。

一つのページ内で複数の言語の記述できること。

2. システム構成

■ インターネット

庁内クライアントPCからCMSにインターネットを経由してアクセスし、コンテンツを作成・更新できること。

■ LGWAN

庁内クライアントPCからCMSにLGWANを経由してアクセスし、コンテンツを作成・更新できること。

■ サーバー構成

WebサーバーとCMSサーバーは分離し、それぞれURLを分けること。

■ 動作テスト

リンクチェック、メール送信のテストが行えること

■ ページ公開

ページ公開後、数秒から1分程度で公開画面からページを閲覧できること。

■ バックアップ

CMSに保有しているデータはバックアップデータを取得しており、緊急時はデータを復元できること。

バックアップデータは閲覧者に影響の少ない深夜帯に取得し、少なくとも3世代前までバックアップデータを取得すること。

■ アクセス制御

管理画面からの設定により、公開画面の特定のディレクトリまたはページに対してBASIC認証が設定できること。

管理画面からの設定によりIPアドレスによるCMSへの接続元の制限ができること。

3. SSL通信

■ SSL対応

公開画面のすべてのコンテンツをHTTPS通信で表示できること。（常時SSL化）

管理画面の操作をすべてhttps通信で表示できること（常時SSL化）

httpでアクセスした場合は、httpsへリダイレクトすること。

4. 管理画面 (1)

■ ブラウザ

職員がCMSを利用するため、特別なソフトを各端末にインストールすることなく、WEBブラウザから利用できること。

■ ログイン

職員がID・パスワード認証によりCMS管理画面へログインできること。

同一アカウントで複数ユーザーが同時にログインして操作することができること。

■ デザイン

ログイン画面、管理画面のデザインを変更できること。

■ メンテナンスモード

CMSにおいて管理者側で、メンテナンスモードに設定することにより、管理者以外のログインを一時的に制限できること。

■ リソース管理

管理者はCMS内で管理しているページ数、素材数、データ容量、組織数、ユーザー数などの情報を一覧で確認できること。



■ ログアウト

ブラウザを閉じるとCMSからログアウトすること。

■ タイムアウト

一定時間操作がない場合、自動的にタイムアウト（ログアウト）すること。

タイムアウトするまでの時間を管理者側で設定できること。

■ メニュー

ログイン後の画面や使用できる機能・メニューは権限ごとに制限できること。

ユーザー毎にブックマークを登録して、自由にメニューに追加できること。

機能メニューには、ページ・カテゴリ管理、ページ検索、承認、素材管理、フォーム管理、システム管理、その他オプション機能が最低限備わっていること。

■ 地図種別

使用できる地図は、GoogleMap以外にもOpenStreetMapや地理院地図などが選択できること。

■ お知らせ

ログイン後のトップ画面に、管理者からのお知らせが表示できること。

ログイン後のトップ画面に表示するお知らせは表示期間が設定できること。



4. 管理画面 (2)

■ポータル

ログイン後のトップ画面では、ユーザーが管理しているページの承認状況、公開開始、終了予約、リンクチェックエラーなどの情報を表示することができること。

■ヘルプ

操作の各項目にヘルプ機能があり、職員に対し分かりやすい説明を行えること。 

CMSの操作方法についてAIチャットボットで回答する機能を有すること。 

■警告

一定期間、更新のないページがある場合、作成者に警告を自動で表示できること。 

ページ等の編集集中に保存せずにページを遷移しようとした場合、警告が表示されること。

5. ページ・ファイル検索

■ CMS内検索

CMSで管理されているページ、ファイル等から特定のキーワードが登録されているデータを検索できる機能があること。

■ 一括置換

検索したキーワードを一括置換することができること。

6. ログ・履歴管理

■ 操作ログ

操作ログを日付・時間・操作内容まで一覧表示により確認できること。

操作ログを日付単位で閲覧でき、CSV形式でダウンロードできること。

任意のページに対して行なわれた操作ログを確認できること。

操作ログは1年以上残せること。

■ 接続元IP

ログインユーザーの接続元IPアドレスが確認できること。

■ ログインログ

ログインに失敗したログを確認できること。

■ プロセス

システムのプロセスログを確認できること。

7. 組織管理

■ 登録

管理者は、CMSの管理画面上で組織情報（部署名・電話番号等）の管理（追加・修正・削除）が行えること。

登録できる組織情報の数は上限がないこと、または十分な数を登録できること。

■ 一括登録

CMSに登録されている組織情報を、CSV等の形式で出力できること。

CSV形式で作成された組織情報をCMSに取り込み一括更新できること。

■ 署名

各ページに掲載する署名（問い合わせ先）を作成・編集・削除できること。

署名は組織ごとに複数登録できること。



作成済みの署名は、管理組織の絞り込みなどにより検索ができること。



署名の検索結果より、選択対象もしくは未使用の署名を一括削除できること。



■ 組織改編

組織改編（新設、統合、分割、廃止）があった際は、作成済のコンテンツを管理する権限を、いずれかの所属に継承させることができること

8. ユーザー管理

■登録

管理者はCMSの管理画面上でユーザー情報（ユーザーID・パスワード・権限設定等）の管理（追加・修正・削除）ができること。

登録できるユーザー情報の数は職員全員にアカウントを作成しても問題がないこと。

■パスワード

パスワードの最低桁数を指定できること。

パスワードに使用できる文字列（英語小文字、英語大文字、数字、記号）を指定できること。

担当者がアカウントのパスワードを変更できること。

パスワードの有効期限設定ができ、有効期限前にユーザーに自動通知されること。



■一括登録

CMSに登録されているユーザー情報を、CSV等の形式で出力できること。

CSV等の形式で作成されたユーザー情報をCMSに取り込み一括更新できること。

■LDAP

LDAPを使用することで、認証基盤とユーザー情報を連携できること。



■権限

CMSの操作を行わず、プレビューだけを確認することができるユーザーを登録できること。

複数所属の兼務が登録できること。



承認権限を持たせるための所属管理者権限を設定できること。

■アカウントロック

ログイン失敗が連続した場合はアカウントを自動的にロックし、その解除については、管理者が手動解除ができること。

ロックされたアカウントは一定時間経過後に自動解除ができること。



アカウントがロックされたアカウント情報の履歴が保存されること。

アカウントがロックされるまでの失敗回数を指定できること。

アカウントがロックされた場合、管理者にロックされたことが通知されること。

9. 公開画面 (1)

■ 閲覧ブラウザ

閲覧者の利用端末（パソコン・スマートフォン・タブレット等）の下記、各種ブラウザで正常に画面表示ができること。

- ・ Safari
- ・ Mozilla Firefox
- ・ Google Chrome
- ・ Microsoft Edge

各ブラウザメーカーにて動作保障中のバージョンは対応すること。また、最新バージョンが公開された場合は、速やかに対応すること。

■ サイトデザイン

公開画面は、サイト全体が標準化・統一化されたデザインルールにより構築されること。

■ 共通部分

ページタイトルの先頭、また末尾に、“〇〇市”などの共通の文字列が自動的に挿入できること。

ヘッダー・フッターなどのサイトの共通部分は、管理者のみが変更できること。

■ ウェブフォント

ユニバーサルデザイン (UD)フォントが利用可能であること。

■ サイト追加

異なるデザインまたはドメインを持つ特設サイト・ページを別途作成し管理できること。

■ 静的書き出し

公開画面は、フォームなどの特殊なページを除き、静的HTMLにより構成すること。

静的に書き出されているファイルの一覧を確認できること。

静的に書き出されているファイルの一括削除ができること。

静的書き出しを行わず、動的表示とする設定ができること。

ページ公開、ヘッダーやフッター、サイドメニューなどを更新した場合は、関連するページのみを書き出し転送すること。

9. 公開画面 (2)

■レスポンシブ

レスポンシブデザインに対応し、パソコン、スマートフォン、タブレット端末等機器の種類やサイズに応じて最適な状態に変化するように設定された単一ファイルを作成すること。

■スマホ専用表示

必要に応じてスマートフォン専用画面を作成できること。この場合は、HTMLファイルは単一ではなくそれぞれ作成するのでよい。

例：トップページはレスポンシブではなくスマホ専用画面を作成し、アクセスしている端末を判断（エージェント判断）して表示を変える

■PC表示切り替え

スマートフォン向けサイトにはパソコン向けサイトへの切替リンクを設置できること。。

■フィーチャーフォン

ユニバーサルデザイン (UD)フォントが利用可能であること。

■ファビコン

ファビコンを設定できること。

公開画面と管理画面でそれぞれ異なるファビコンを設定できること。

■SNSタイムライン

SNSのタイムラインをページ内に埋め込むことができること。

■404ページ

コンテンツが存在しないページへアクセスした場合、案内ページ（404ページ）を表示すること。

■スタイルシート

データと表示スタイルを完全に分離し、表示スタイルはすべてスタイルシートで管理すること。

スタイルシートの修正反映前にプレビューで反映後の表示を確認できること。

10. 画面の印刷

■ 印刷

ページ内のコンテンツ部分を、A4縦サイズで内容が損なわれることなく印刷できること。

印刷時にヘッダー・フッター・サイドメニュー部分は印刷対象より除くことができること。

ページ内に印刷ボタンを設置できること。

11. アクセシビリティ

■ キーボード操作

閲覧者が、キーボードのみでの操作を行うことができること。

閲覧者が、キーボード操作でリンクなどにフォーカスした際に、フォーカスリングが表示されること。

■ 支援機能

アクセシビリティ支援機能、自動翻訳機能等に関するボタンは、各ページ共通の位置に設置すること。

アクセシビリティ支援機能、自動翻訳機能等を使用する際には、同意画面などへ遷移することなくすぐに使うことができること。

■ 文字サイズ

閲覧者が任意に文字の大きさや表示の拡大・縮小をできること。

■ 背景色

閲覧者が背景色を黒、青、黄色などいくつかから選択して変更できること。

■ 音声読み上げ

閲覧中ページをアプリケーションのインストール無く音声読み上げ機能を使用することができること。

■ 辞書

音声読み上げ、振り仮名機能について、漢字や英語などの読み方について個別に設定できること。

■ 振り仮名

閲覧中のページの文章に、平仮名で振り仮名をアプリケーションのインストール無く表示させることができること。

閲覧中のページの文章に、ローマ字で振り仮名をアプリケーションのインストール無く表示させることができること。

やさしい日本語に対応するシステムを導入すること。



12. ナビゲーション

■パンくずリスト

トップページを除く全ページに「パンくずリスト」を自動表示すること。

パンくずリストには対象のページが複数のカテゴリより参照されている場合は、すべての閲覧経路の表示ができること。

■足跡

閲覧者がサイト内を閲覧したページ順に表示ができる足跡機能を有すること。ページの表示件数は設定できること。 

■グローバルナビ

各ページの同じ位置にグローバルナビゲーションを自動的に生成できること。

グローバルナビゲーションにマウスオーバーした際に、ドロップダウンで下位メニューを表示できること。

■ローカルナビ

各ページに同じ階層内のカテゴリ及びページへのリンクを表示するローカルナビゲーションを自動的に生成できること。

■戻るボタン

各ページの同じ位置に「トップページへ戻る」「前のページに戻る」等のナビゲーション配置できること。

13. サイトマップ

■ サイトマップ

サイト全体の構成を容易に理解できるサイトマップを自動生成できること。

コンテンツの追加、変更にともないサイトマップが自動で更新されること。

サイトマップに表示するコンテンツを選択することができること。

■ XMLサイトマップ

検索エンジン向けにサイトマップのxmlファイルを出力できること。

14. サイト内検索

■ 検索

サイト内検索機能を設け、サイト内のコンテンツをキーワードにより検索ができること。 ●

■ キーワード

キーワード完全一致の検索だけでなく、表記の違いがあっても検索結果が表示される同義語検索機能が備わっていること。 ●

サイト分析に利用するため、サイト内検索されたキーワードと検索数が収集できること。 ●

■ キーワード連動

特定のキーワードに対して注目情報を登録し、検索結果に表示できること。 ●

■ サジェスト

検索キーワード入力中にキーワードを補完（サジェスト）して候補を表示できること。 ●

■ 検索結果

サイト内の検索結果ページは、サイト内の他のページと同様のヘッダー・フッターを表示させ、別のサイトに移動してしまったという印象を与えないようにすること。 ●

検索結果画面には広告が表示されないこと。 ●

検索結果は、カテゴリ別、組織別、添付ファイルなどで絞り込むことができること。 ●

特定のキーワード検索結果に対して、よく見られているページの一覧を表示できること。 ●

■ 更新頻度

サイト内検索結果への追加、削除等の反映は、1時間程度で行われること。 ●

■ ページ番号

ページ番号による検索ができること。 ❌

■ 除外URL

検索対象から外したいページは除外URLとして登録できること。 ●

■ 外部サイト

当サイトとは別のサイト（別ドメイン）の情報も検索結果に表示することができること。 ●

15. 外国語翻訳

■ 翻訳機能

指定する位置に外国語への翻訳ボタンを配置することができること。

■ 外国語

英語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語の4カ国以上の言語に対する自動翻訳システムを設置できること。

サイト分析に利用するため、サイト内検索されたキーワードと検索数が収集できること。

■ 辞書

翻訳の修正機能や固有名詞が登録できる辞書機能を有すること。



16. RSS出力

■フィード配信

カテゴリごとの新着情報を、RSSフォーマットで出力できること。

■フィード取り込み

トップページに、外部サイトからRSSで配信される情報を表示できること。

17. 緊急表示

■ 緊急時表示

大規模災害発生等の緊急時、多数のアクセス集中に対応するためにテキスト中心の緊急時トップページに切り替えることができること。

複数のパターンを用意することにより、緊急レベルによってトップページの切り替え内容を選択できること。

■ 自動切り替え

災害発生情報を掲載した際に自動的に緊急時トップページに切り替わること。



■ 緊急情報

通常のトップページに緊急情報を掲載できるエリアを設け、職員の操作により情報を掲載できること。なお、当該エリアは緊急情報が無い場合は表示されないようにすること。

■ 更新環境

大規模災害などにより庁舎内から更新ができなくなった場合、職員が庁舎外のインターネット環境からも更新を行うことができること。

■ 情報連携

Jアラートやデジタル同報無線などと連動し、自動的にトップページ上に災害発生情報を掲載できること。

18. お問い合わせ・アンケートフォーム (1)

■ フォーム作成

同時に複数のフォームが開設できること。

同時に開設できるフォームの数に上限が無いこと。

作成者にHTMLの知識が無くても容易に任意のフォームを作成できること。

■ 公開予約

指定した公開日・公開終了日に、自動公開・公開終了できること。

■ 設問

フォームの設問は、択一方式（ラジオボタン）、複数選択可（チェックボックス）、プルダウンメニュー、自由記入欄等、いろいろな設問形式で作成できること。

フォームの設問に添付ファイルを作成し、ファイル種別、容量などを制限して添付ファイルを送信できること。

フォームには画像の挿入・各種ファイル（Word・Excel・PDF等）の添付・関連ページへのリンク等の記載ができること。

フォームの設問数は、上限がないこと。

必須・任意項目の設定ができること。

フォームの記入欄には、入力文字数に制限がかけられること。

フォームの記入欄には、全角・半角・メール形式などの入力制限を設定できること。 ▲

メールアドレスの入力内容を確認するための確認フォームを作成できること。

フォームの記入欄には、placeholder（入力例）を設定できること。

■ ルート設定

選択によって質問を変えることができるカスタムロジックの機能が備わっていること。

お問い合わせフォームには、返信が必要または不要の選択ができ、返信が必要な場合はメールアドレスの入力を必須にできること。

■ エラー表示

投稿者側において、必須項目が未記入であった場合、警告（エラー）が表示されること。

入力エラーがあった場合に、投稿者に対してエラー理由をテキストで表示できること。

18. お問い合わせ・アンケートフォーム (2)

■ 投稿

フォームの利用者が入力内容を送信前に確認できること。

連続投稿を防ぐ制限機能があること。(ダブルクリック防止)

投稿送信後に受け付けた旨と投稿内容を記載したメールを投稿者に自動送信できること。

■ 投稿通知

フォームを作成する際、投稿受付メールの送信先を任意のアドレスに設定できること。また、投稿があった場合、設定されたアドレスに投稿があった旨のメールを自動送信できること。

■ データ管理

フォームからの送信後には、公開サーバー上にデータが残らない仕組みとすること。

■ 画像認証

不正投稿を防ぐため画像認証機能があること。

■ 送信元確認

送信元IPアドレスも取得し確認ができること。(いたずらメール、脅迫メール対策)

どのページのフォームから投稿があったのか判別できること。

■ フィードバック

記事ページの下部に閲覧者の意見を聴くためのミニアンケート(フィードバックフォーム)を設置できること。

■ 出力

投稿内容をCSVファイル等で出力・保存できること。

■ 削除

投稿内容を一括で削除することができること。

■ 採番

フォームからの投稿には一意の番号を自動採番できること。



■ 記事連携

フォームからの投稿内容を自動的に記事に登録し、公開できること。



■ 集計

回答内容を集計してCSVでダウンロードできること。

集計結果を表示するページが自動作成できること。

集計結果ページの表示はグラフなどを用いてリッチな表示にできること。

■ 作成

市民からの意見や提案を受け付けるフォームを作成できること。

■ 自動送信

投稿送信後に受け付けた旨と投稿内容を記載したメールを投稿者に自動送信できること。

■ データ管理

フォームからの送信後には、公開サーバー上にデータが残らない仕組みとすること。

■ 登録

電話や手紙、電子メールなどによる市民からの意見や提案、要望、苦情などの情報と対応内容を登録できること。

■ 追加・修正

登録された情報（基本情報・申出者情報・意見要旨・対応内容）の修正や意見・対応内容の追加が行えること。

■ 最終回答

複数所属が対応した内容を合わせて回答するための最終回答の作成が行えること。

■ 送信

最終回答をCMSから投稿者へメールで送信できること。

■ 編集

「全庁共有」「公開」するために個人情報（氏名・住所など個人を特定できる情報）を隠すなどの編集が行えること。

■ 検索

登録された情報を受付日、意見の種類（「意見・提案」「要望」「苦情」「相談・質問」「その他」）、対応所属、対応状況（「受付のみ」「対応中」「対応済」「対応済（予算化）」「その他」）、キーワード（検索対象は件名、意見要旨、対応内容、備考）などで検索できること。

■ 印刷

登録された情報を「整理票」として印刷できること。

対応内容が複数ある場合、必要な対応内容を選んで印刷することができること。

■ 集計結果

集計結果（「受付件数」「共有範囲別件数」「意見の種類別件数」「対応状況別件数」）が確認できること。また、CSVファイルとして出力できること。

■ 一般公開

市民からの意見や提案を受け付けるフォームを作成できること。

対応所属が共有範囲で「公開」を選択すると、「公開」を知らせる電子メールが管理課に送信され、管理課が内容を確認後ホームページ上に公開できること。

■ 公開検索

ホームページ上で受付日、分野、担当所属、キーワードで検索できること。

■ 登録

CMSに全作成者が共通で使用可能な画像の素材集を設置でき、一覧表示の中から選択して使用できること。

■ 削除

素材集は、管理者によって、追加・削除ができること。

■ 一括削除

素材の一括削除ができること。

■ 作成者

作成者が共用で使用できる画像を登録できること。

作成者がグループ内だけで使用できる画像を登録できること。

■ 被リンク

登録している素材が利用されているページの一覧を表示できること。

21. 記事作成 (1)

■ ページタイトル

ページタイトルは必須入力として簡単な操作で入力できること。

記事ページタイトルは重複チェックが可能で、必要に応じて重複を許可することができること。

ページタイトルの文字数を制限できること。また、無制限にすることも可能なこと。

■ HTMLファイル名

ページ作成時にHTMLファイル名を任意に設定できること。設定しない場合はシステムが自動で割り振ること。

公開時のURLが公開前に表示させるようにし、コピーして活用できること。

■ 記事ディレクトリ

記事ページはカテゴリディレクトリや組織ディレクトリ下に配置するのではなく、記事ディレクトリ下に配置できること。これはカテゴリや組織が変更になっても記事URLが変わらないようにするためである。

■ 操作性

HTML言語を意識することなく、一般的なワープロソフトに近い操作性 (WYGYWIG) によりコンテンツ (ページ) を編集できること。

■ ブロック型

WYSIWYGの他に、一行入力、複数行入力、見出し、画像、添付ファイル、リスト、動画など決まった入力項目に情報を設定するブロック型の入力が可能なインターフェイスを実装していること。✖

■ 検索・置換

記事ページ作成画面内に文字列の検索・置換機能があり、容易に文字列の検索・置換ができること。

■ アンドゥ

作成時に操作を誤った場合、その操作の一つ前の状態に戻すことができること。

■ ソース編集

権限を与えられたユーザーは、HTMLのソースコードを直接編集できること。▲

■ テンプレート

フォーム入力型のテンプレートも利用できること。

WYSIWYGインターフェイスとフォーム入力型インターフェイスが、同一のテンプレート内で利用できること。

入力フォームごとに本文の初期値を設定することができること。

初期構築時には、業務用途に応じたテンプレートをCMS内に登録すること。

テンプレートは、HTMLやCSSの知識がある職員 (サイト管理者) レベルで、修正、追加、削除ができること。

21. 記事作成 (2)

■ 編集画面

記事編集画面は公開画面のイメージと近い状態で編集できること。

公開側のページ（ヘッダ、フッタ含める）のイメージのまま直接編集ができること。



■ 一時保存

作成途中のページを一時的に保存し、再ログイン後に編集を再開できること。

■ 編集権限

ひとつのページに対して、複数のユーザーが編集権限（組織単位で）を持てること

■ 排他処理

他のユーザーが同一のページを編集しようとする際に、編集作業中であることを表示する、または編集できないようにロックを行うこと。

■ メモ

記事編集画面で確認できるメモを記入できること。

■ エラー表示

記事ページ作成完了時、重要項目に未入力があった場合、警告を表示しスムーズに修正できること。

■ 公開日

ページ作成時に公開日は自動で表示されること。また、任意の日時に変更ができること。

■ 更新日

ページ作成時に更新日は自動で表示されること。また、任意の日時に変更ができること。

公開日時と更新日時が全く同じ場合は、更新日を表示しないこと。

■ 日付表示形式

西暦表示だけでなく和暦表示ができること。



■ 公開予約

ページ作成時に公開日時・終了日時を指定して、自動公開・自動終了ができること。

■ 公開期間

公開期間を無期限で設定できること。

ページ作成時にあらかじめ設定しておいた公開期間が自動的に設定されること。

例：「公開期間：365日」にしている場合、作成日から365日後の日付が自動的に登録される

21. 記事作成 (3)

■ ページ更新

すでに公開されている記事ページを修正する場合は、公開中のページに影響することなく修正でき、上書き公開できること。

すでに公開されている記事ページを未来の日付で更新する場合は、現在のページを直接編集し日時設定することで、予定の日時に記事ページが自動更新されること。

一定期間更新のない記事ページが存在する際、管理画面上で警告を表示すること。その際警告を表示させる期間の設定が容易に可能であること。 

一定期間更新のない記事ページが存在する際、強制的に公開を停止する機能を有すること。また、記事ページ一覧画面より継続などの措置が簡易に行えること。 

■ 履歴管理

上書き公開した際に、元記事の情報を履歴として1世代以上管理すること。

履歴情報から記事内容を差し戻すことができること。

■ 削除

公開中のページは削除できないこと。必ず、下書きや公開終了状態にしてから削除すること。

公開中以外のページを一括で削除できること。

■ ごみ箱

記事を削除した際に、一定期間ごみ箱に情報を残しておき復元することができること。。

ごみ箱に残しておく期間を設定できること。

■ 一括処理

「公開終了」「承認」「公開」の一括処理を行うことができること。

■ 被リンク

他のページからリンクされているページの一覧を確認できること。

ページを公開終了にする際に他のページからリンクが設定されていないかチェックを行い、リンクが貼られていた場合は警告を表示すること。

ページを公開終了にする際に、他のページ内のリンクを自動的に削除すること。その際に（公開終了）のようにリンク先が公開終了したことがわかるテキストを追加すること。 

ページを公開終了にした際に他のページからリンクされていたら、ページ内のリンクが切れたことをページの作成担当者にメールで通知すること。

■ 内容コピー

Microsoft Word、Excelの内容をコピーアンドペーストで入力できること。その際アプリケーション固有のタグは削除されること。

21. 記事作成 (4)

■新着タイトル

新着情報に表示するタイトルを、ページのタイトルとは異なるものに設定できること。

新着情報に表示するタイトルのリンク先を任意のページ、ファイルなどに設定できること。その際、記事自体はページとして表示されないこと。

■署名

ページ作成時、担当部署名・連絡先等の署名が自動的に掲載できること。

複数の異なる担当課情報を併記できること。

■見出し

見出し2から見出し6までが設定できること。

見出し2・見出し3にページ内リンクの飛び先（#id名）が自動で設定ができること。 ❌

見出し2・見出し3を元に目次を自動生成できること。 ❌

■リスト

番号なしリストを設定できること。

番号ありリストを設定できること。

リストの中にさらにリストを設定できること。

リストやリンクの並びすぎをチェックできること。 ❌

■表

表を新規で作成できること。

行、列の追加や削除、見出しセルの設定、幅の調整などが、HTMLソースを直接編集することなく、簡単な操作で編集できること。

表はスクロールバー表示等でスマートフォン版でも見やすい表となるようにすること。

Excelからコピーした表について、CMS上で行・列の追加、削除、セル幅の変更等が行えること。

ホームページの横幅を超える表をExcelから貼り付けた際、自動的に最適な表示に置き換わること。

21. 記事作成 (5)

■ ファイル管理

アップロードできるファイルの種類・容量を制限できること。

1 ページにアップロードできるファイルの数を制限できること。 ❌

1 ページに添付可能な添付ファイルの全体サイズを指定できること。 ❌

同名のファイルをアップロードしようとした場合は警告を表示すること。

同名のファイルを上書きでアップロードできること。

画像、添付ファイルのファイル名が、日本語名などのサーバー上で使用できないものである場合には警告を表示し、スムーズに修正できること。

ページを非公開にした際に、自動的に添付ファイルも非公開になること。

■ 画像

画像サイズの大きいものはアップロードする際、自動的にリサイズされること。

画像をアップロードする際にEXIF情報を自動的に削除すること。

画像のalt属性（代替テキスト）が空白だと警告が表示されること。

画像のalt属性（代替テキスト）が不要の場合もあるため、空白でも登録できること。

画像のalt属性（代替テキスト）の入力を必須とする設定ができること。

画像のalt属性（代替テキスト）の入力のチェックが行われ、未入力の場合は画像を表示できないこと。 ❌

画像を簡単な操作で配置できること。また、同一ページ内に掲載数の制限なく複数配置できること。

画像ファイルに説明やリンクをつけられること。

画像のトリミングができること。

画像ファイルに説明やリンクをつけられること。

画像のモザイク加工ができること。 ❌

画像にフィルターをあてて色味を変更できること。 ❌

画像の回転ができること。 ❌

画像に文字を追加してバナー画像を作成できること。 ❌

簡単な操作で画像上の指定された位置に、コピーライトの表示ができること。 ❌

WebP形式の画像をアップロードできること。

AVIF形式の画像をアップロードできること。 ❌

21. 記事作成 (6)

■サムネイル

画像のアップロード時にサムネイル画像を生成すること。

生成されるサムネイル画像のサイズを指定できること。

サムネイル画像をページに挿入した場合、自動的に原寸サイズの画像へのリンクが設定され、新しいウィンドウで開かれるようにできること。 

■添付ファイル

各種添付ファイル（Word・Excel・PDF等）をブラウザ上から簡単にCMSサーバにアップロードでき、ページ内に埋め込めること。

添付ファイルをドラック&ドロップでCMS上にアップロードできること。また、一括でアップロードできること。

ファイルをアップロードする場合、プロパティ情報に個人情報が含まれていないかチェックできること。 

添付ファイルを埋め込んだ際には、自動的にファイル名、容量、ファイル種別が表示されること。

PDFファイルをページに添付した場合は、Adobe Readerのダウンロードを促す案内が自動挿入されること。

■地図

ページ内に地図情報を埋め込めること。

地図の縮尺や表示サイズ変更、中心座標の移動が行えること。

住所や施設名で検索して位置情報を検索できること。

地図情報は施設名（住所）・緯度・経度を事前にCMS上に登録でき、ページ編集時に選択できること。 

地図に複数のポイント（ピン）を設定できること。

駅、地下鉄駅などかから施設（ピン）までのルート表示ができること。

■動画

YouTubeの動画を職員で簡単に埋め込み掲載できること。

表示するYouTubeのサイズをブラウザサイズに合わせて自動でリサイズすることができること。

動画ファイル、音声ファイルを埋め込み再生プレイヤー付きで掲載できること。

21. 記事作成 (7)

■ リンク

外部・内部へのリンクを設定する際、別ウィンドウで開く設定ができること。

外部リンクを設定した場合、サイト管理者が定めた任意のルールに基づき、リンク文字列の後ろに「外部リンク」などの文言を自動挿入できること。

内部リンクはサイトツリーから選択するなど、アドレス入力やファイル名指定の必要がなく設定できること。 

同一ページ内の指定する位置へページ内リンク（アンカー）が設定できること。

■ リンクチェック

リンク切れのチェック機能を有すること。

■ 単語チェック

使用が好まれない単語を含んだ表記がある場合、指定の表記に置き換えることができること。
例：「子供」→「子ども」

画像の代替テキストとしての使用が好ましくない単語（例：「写真」、「画像」）が設定されていた場合、警告を表示できること。警告を表示する単語は、サイト管理者が任意で登録することができ、登録可能な単語数に制限がないこと。 

リンクのタイトルテキストとしての使用が好ましくない単語（例：「こちら」、「こちらをクリック」）が設定されている場合、警告を表示できること。警告を表示する単語は、サイト管理者が任意で登録することができ、登録可能な単語数に制限がないこと。 

あえて表記する場合も想定し、単語置換を無視することができること。

警告を表示する単語は管理者が任意に登録できること。また、登録数に制限がないこと。

21. 記事作成 (8)

■ アクセシビリティチェック

ウェブアクセシビリティチェックは、最新のJIS X 8341-3の等級AAに準拠したチェックができること。 ❌

問題箇所を明示し、なぜ問題があるのか、どう修正したら良いのかを表示できること。 ❌

アクセシビリティなどに関する項目のチェックを自動で行い、問題がある箇所は警告を表示すること。

- ・見出しの階層構造
 - ・連続した改行
 - ・表のキャプションの有無
 - ・表の空白セル
- など

文字色変更と背景色の組み合わせが色覚に障がいのある人に適切かどうかを確認できること。 ❌

予め決められている文字色（適切なコントラスト）以外の文字色は使用できないこと。

警告対象となった箇所は、画面中にハイライト表示し、修正対象をすばやく見つけ出すことができること。 ❌

記事ページ単位で、色覚多様性ごとの見え方を反映し、色や画像に頼った情報提供になっていないかを確認できること。 ❌

記事ページ単位で、音声読み上げの順序を確認できること。

記事ページ一覧画面においてアクセシビリティに違反する記事ページがひと目で分かるよう表示できること。 ❌

アクセシビリティのチェック項目は任意で変更ができること。 ❌

■ 自動変換

全角英数字を半角英数字に自動置き換えできること。

半角カナを全角カナに自動置き換えできること。

全角スペースは自動削除もしくは半角スペースに変換できること。

機種依存文字を自動置き換え、もしくは警告表示可能であること。
機種依存文字及び置き換え文字について、一般的な内容で提案及び初期設定すること。
(例：①・I→1、(株)→(株)、Tel→電話 など)

日時、曜日等の表記がアクセシビリティ上不適切である場合、自動変換する機能を有すること。
例：2022/4/1→2022年4月1日 (月)→(月曜日) 13:30→13時30分

コンテンツ内容によっては、あえて表記する場合もあるため、変換・非変換を選択できること。

21. 記事作成 (9)

■ QRコード

記事URLのQRコードが自動的にページ内に配置できること。

上記のQRコードは、画像サイズを変更できること。



■ フィーチャーフォン

フィーチャーフォン用に簡易な内容の本文を入力できること。

フィーチャーフォンの場合は添付ファイルを表示せず、PCサイトでの閲覧を案内すること。

■ SEO対策

検索サイトで上位に記事ページを表示させる機能 (SEO) 対策として、検索用キーワード (meta keyword) を容易に設定できること。

ページの説明文 (meta discription) をページごとに設定できること。

■ SNS連携

「いいね!」「ツイート」などのソーシャル連携 (シェア) ボタンを設置できること。

記事公開時にTwitter、Lineなどへ自動的に投稿できること。



ページ作成時に、Instagramへ自動投稿できること。



記事本文中の画像を自動的にOGP用画像として設定できること。

記事に画像が無い場合、サイトに設定されているOGP用画像が自動的に設定されること。

記事本文の先頭140文字程度をOGP用の説明文として自動登録できること。

■ おすすめ表示

「このページを見た人はこんなページも見ています」といった、おすすめページを自動的に表示できること。



記事ページと類似の内容の記事一覧を自動的に表示できること。



記事ページにサイト管理者がおすすめする記事ページをサムネイル表示する機能を有すること。

22. プレビュー

■プレビュー

プレビュー機能があり、画面上でどのように公開されるのか、都度確認ができること。

プレビュー時にレスポンシブウェブデザインの表示を簡単に切り替えることができること。 ❌

スマートフォン版ページなど、他のメディアへの表示もプレビューで確認できること。

プレビュー表示は、スマートフォンの画面表示をパソコンの画面表示よりも優先してプレビューできるような工夫があること。（例：スマートフォンのプレビューを閲覧するためのボタンがパソコンのプレビューを閲覧するボタンより上部にある、又は強調されている等） ❌

■印刷

プレビュー時、もしくはCMS画面より、ページ全体をPDFで出力できること（印刷機能からPDF出力でも可）。その際に、ヘッダー・フッター・サイドメニュー部分は印刷対象より除くことができること。

PDF出力時に、合わせて公開期間等の詳細情報を出力できること。

PDF出力時に、CMS操作画面が印刷されないこと。

■編集

プレビュー時にサイドメニューや広告バナーなどのパーツをクリックすることで、編集画面に移動できること。

23. 承認フロー（1）

■ 多段承認

承認ルートとして、多段階承認の設定ができること。

■ 承認ルート

and承認、or承認の設定ができること。

承認フローは複数の担当者、承認者が所属するグループ間で設定できること。
例：総務課が承認してその次に、広報広聴課が承認する

管理の対象（グループ）ごとに異なった承認ルートを設定できること。

管理者が必要に応じて承認フローの段階を容易に増減できること。

■ 変更

管理者は、組織改編等に伴う承認ワークフローの変更が容易に行えること。

グループ毎の承認フローの設定をCSV形式にてダウンロードできること。 ❌

CSVをアップロードすることにより、一括で承認フローを登録できること。 ❌

■ メール通知

申請、承認などの各アクション後に該当者にメール送信等により通知が行えること。

承認督促メール期間を設定することができ、承認依頼からその期間を過ぎると、承認者へ督促メールが自動送信されること。 ❌

■ 状況確認

作成者は、承認依頼中ページの依頼状況を確認できること。

承認者は、自身の権限に関する承認依頼の状況一覧を確認できること。

■ 一括承認

承認者は、複数のページを一括して承認できること。 ❌

■ 即時公開

管理者は、承認者の承認を必要とせずにページを即時公開できること。

■ ページ確認

承認者は、作成者と同様にページの編集・設定・プレビュー・アクセシビリティのチェックが行えること。

■ 引き戻し、差し戻し

承認者による差し戻し、作成者による引き戻しが容易に行えること。

承認、差し戻し、引き戻しの際はコメントが入力できること。

承認者は、複数のページを一括して差し戻しできること。 ❌

23. 承認フロー（2）

■ 差分表示

承認者は、再承認依頼を受けた記事ページの変更された箇所を視覚的に確認できること。



■ 内容確認

作成者が添付ファイルを一度開かないと承認依頼できないこと。



承認者が添付ファイルを一度開かないと承認できないこと。



■ 承認後公開

公開が承認された後、自動的にページが公開されること。

■ 公開予約

公開予約日時が設定されている場合、承認が完了していない場合は公開されないこと。

■ 代理承認

承認者が不在の時、代理承認などの手段によって記事ページが公開できること。



■ 引き上げ

上位の承認者は下位の承認者を飛ばすこと（引き揚げ）ができること。



■ カテゴリ承認

入札情報や事業者向け情報などの特定のカテゴリにおいては、別の承認フローによる運用ができること。

例：所属承認が完了→記事が公開

入札情報カテゴリの承認が完了→入札情報カテゴリページに記事へのリンクが追加

24. カテゴリ

■一覧

ページが公開されたタイミングで、ページ作成時に選択したトピックス（新着情報、お知らせ、募集等）やカテゴリ内トップページ等に公開されたページへのリンクが自動的に表示されること。

■階層

カテゴリの階層には制限がないこと。

■分類

1つの記事ページに対して複数系統のカテゴリを設定できること。

■分類軸

分野、属性、目的、ライフイベントなど、複数のカテゴリ分類軸を作成できること。

■ネスト表示

複数系統のカテゴリが設定されている記事の一覧を表示できること。

例：分野：子育てと目的：申請書ダウンロードが設定されている記事の一覧を表示

■件数表示

カテゴリ一覧のカテゴリ毎に記事が何件登録されているかを表示できること。

■更新

カテゴリの追加、変更、削除を行った際、パンくずリストやサイトマップなど、関連する表示内容も合わせて変更されること。

■検索

カテゴリ分類は大→中→小カテゴリといった一方通行的なものだけでなく、必要に応じて、逆引きもできるように設定可能であること。（たとえば、「住宅→申請」といった流れだけでなく、「申請→住宅」といった流れも自動で実現できること）



25. インデックス（記事一覧）

■ ページ送り

一覧に掲載するページが一定件数以上となる場合は、自動でページ送りページが生成されること。

■ 並び順

一覧に掲載した情報は、自動的に掲載した日付の降順または更新日の降順で表示され、表示しきれない情報は、一覧ページに別途表示できること。

■ 表示形式

一覧には、ページの件名（タイトル）のほか、公開日や概要、画像などを表示できること。

ページへのリンクだけでなく、添付ファイルや外部サイトへのリンクを表示することができること。

■ 表示件数

新着一覧に表示する件数は、任意の値に設定できること。

■ Newマーク

トップページの新着情報一覧にはNewマークを表示できること。

Newマークの表示期間を設定できること。

■ アーカイブ

月別、年別のアーカイブ表示ができること。

26. 固定ページ

■ 作成

任意のURLを指定した固定ページを作成できること。

■ 編集画面

固定ページ編集画面は公開画面のイメージと近い状態で編集できること。

■ 一括アップロード

例規集やホームページ・ビルダーなどで作成したページをフォルダごと一括でアップロードし公開できること。FTPによるアップは認めない。

27. 施設マップ

■ 作成

公共施設などの所在地の表示ができる施設マップを作成することができること。

■ 分類

施設マップには施設の種類毎にカテゴリ分類を設定できること。

施設マップのカテゴリ分類毎にピンアイコンの画像を設定することができること。

■ 詳細

施設マップ上のピンをクリックすると、施設の概要や詳細ページへのリンクを設定できること。

28. イベントカレンダー

■登録

記事ページを作成した際にイベント開催日を複数日指定や期間指定ができ、イベントカレンダーに自動的に反映できること。

定期的なイベント開催などの場合、繰り返し登録ができること。
表示は、日、週、月、年などで設定できること。



■分類

イベントをカテゴリに分けて登録、表示できること。

■検索

イベントを開催日、カテゴリ、キーワードなどで絞り込み検索できること。

■表示形式

本日、明日のイベントを表示することができること。

イベント一覧の表示形式は、一覧、カレンダー形式が選択できること。

■募集期間

イベントカレンダーに掲載されているイベント情報において、「申込終了間近」「申込終了」「募集終了」等のイベントが直感的に分かるようアイコン表示ができること。



■休日登録

任意の休日を登録することができること。

29. FAQ機能

■作成

カテゴリ別表示が可能なFAQページ（よくある質問ページ）を容易に作成・更新・削除できること。

■リンク

FAQページ（よくある質問ページ）には、関連ページへのリンクや問い合わせ先を容易に設定できること。

関連ページや問い合わせ先が変更・移動・削除された場合は、自動で修正できること。

■一括登録

CSVによる一括登録ができること。



■検索

カテゴリによる検索、キーワードによる検索が可能であること。。

キーワード検索結果は、更新日の昇順・降順など並び替え、よく見られている順での並び替えが可能であること。



■ランキング

よく見られているFAQのランキングを表示できること。

30. バナー広告

■ 設置

広告バナー画像、URL、掲載期間、掲載場所を個別に指定して表示できること。

バナー広告の表示数は、容易に変更できること。

バナー広告の空きスペースには、「募集中」などの代替画像を表示できること。

■ 画像データ

画像データは、JPG・GIF（透過GIF・アニメーションGIF）・PNGが使用できること。

■ 表示順

一定期間ごとに自動で表示順の並べ替えができること。

■ クリック数

掲載した広告バナーのクリック数を集計できること。

■ 管理

サイト管理者のみがバナー広告を管理・掲載・削除でき、特別な知識がなくても容易に操作できること。

■ 予約

掲載期間を登録することにより、自動的に掲載開始、掲載終了できること。

31. スライダー

■ 設置

トップページの目立つ位置に、画像等を複数掲載したスライダー（カルーセル）を表示できること。

■ 操作

スライダー（カルーセル）は、閲覧者が自由にスライド、切り替わりの停止ができること。

■ リンク

スライダー（カルーセル）の画像には、リンクを設定することができること。

■ クリック数

スライダー（カルーセル）の画像のクリック数を集計できること。。

■ 管理

スライダー（カルーセル）の画像の管理・掲載・削除は担当者が容易に行うことができること。

■ 予約

掲載期間を登録することにより、自動的に掲載開始、掲載終了できること。

32. カウントダウン

■ 設置

イベントなどの開催日まであと何日といった表示ができること。

イベントなどの開催日まであと何日といった表示は、トップページに表示でき、内容説明及び記事ページへのリンク設定などを、容易に設定できること。

イベントなどの開催日まであと何日といった表示は、記事ページに表示でき、内容説明及び記事ページへのリンク設定などを、容易に設定できること。

33. チャットボット



■ 設置

チャットボットをサイト内の指定の位置に表示できること。

■ 作成

チャットボットの作成、管理ができること。

■ シナリオ

職員が会話のシナリオを作成できること。

■ 一括登録

シナリオはCSVによる一括登録ができること。

■ 類義語

類義語の登録ができること。

34. オープンデータ

■ ページ作成

オープンデータを掲載できるページの作成が可能であること。

掲載したオープンデータを集約したページが作成でき、オープンデータの検索やダウンロードができること。

■ API

データ配信ができるようにWeb API機能を有すること。 

CKAN API (Version3) からデータセットをインポートできること。 

CKAN API (Version3) を利用し CKAN へデータセットをエクスポートできること。 

35. メールマガジン



■ 配信

メールマガジンの配信ができること。

■ ユーザー属性

年代、地域、職業などのユーザー属性を登録できること。

■ 配信先指定

ユーザー属性に応じてメール配信先を設定できること。

■ バックナンバー

配信したメールマガジンをバックナンバーとして公開できること。

■ 配信予約

配信予約を行うことができること。

36. デジタルブック

■アップロード

デジタルブックをアップロードしてホームページ上に公開できること。

■作成

PDFを取り込み、パソコン及びスマートフォンにて再生できるウェブブック（ページをめくるような操作で閲覧できる、拡大縮小機能を有する）を作成できること。 

作成できるデジタルブックの冊数に上限がないこと。 

37. サブサイト

■ 作成

サイト全体の階層構造とは異なる独自のメニュー構造（階層構造）を持ったまとまりを、サブサイトとして管理できること。

サブサイトは、管理画面から複数作成できること。

■ トップページ

サブサイトは、専用のトップページを有すること。

■ メニュー

独自のメニュー構造は、カテゴリ分類とは独立して存在すること。

■ コンテンツ

サブサイトは、当該サブサイト内でのみ通用するカテゴリ、イベントカレンダー、施設マップなどを作成できること。

■ 権限

サブサイトは、各所属にて管理画面から複数作成できること。

■ 共同管理

1つのサブサイトは限定された複数の所属で共同管理できること。

38. アクセス解析

■ アクセス解析

全ページ及び各ページのアクセス件数（PageView）・ログを取得できること。その際、庁内からのアクセスはカウントしないこと、もしくは庁内からのアクセス数が把握できること。

閲覧者の使用しているブラウザ・OSが解析及び集計できること。

閲覧者の接続ポイント（都道府県）を解析及び集計できること。

解析結果は、CSVファイル等で保存・出力できること。

カテゴリ別のアクセス状況・検索キーワード・ページの移動経路等が解析できること。

39. アクセスランキング

■ ランキング

アクセス解析機能と連動したアクセスランキングの表示ができること。

■ 除外設定

トップページや中間ページの集計は表示しないように除外設定ができること。

■ 表示形式

前日、先週、先月などを選択してランキングを表示することができること。

■ データ移行

公開画面から現行サイトのページ情報を取得し、ページタイトル、公開日、本文、添付ファイル、カテゴリ、組織情報などを分析して記事として取込みできること。

■ 差分移行

データ移行後に現行サイトが更新された場合、差分移行が行えること。

■ リンク置換

データ移行時に現行サイト内へのリンクは移行後サイト内のリンクへ置換すること。。

■ 出力

移行ページの新旧URL一覧をCSVで出力できること。。

■ リダイレクト

旧URLにアクセスしたら新URLを開くようにリダイレクト設定できること。

41. リンクチェック

■ リンクチェック

日次でリンク切れのチェックを行い、リンク切れを一括で確認できること。

■ 出力

リンクチェック結果をCSV出力できること。

■ ホワイトリスト

リンクチェックの対象外とするURLをホワイトリストとして登録できること。

■ チェック対象

サイト内のリンクチェックだけを行う設定ができること。

■ 登録

質問に回答すると必要な手続きが一覧で表示されること。

登録できる質問数、手続き数に上限がないこと。。

■ 分類

カテゴリで分類できること。

■ 結果

結果ページのURLをコピーすれば、いつでも結果を再確認できること。

結果が出た後で、回答内容を変更できること。

43. 施設予約状況表示

■ 施設予約

施設の予約状況を登録できること。

■ 施設情報

任意の施設を登録できること。

任意の施設予約時間を登録できること。

施設予約状況の予約ステータスは任意に登録できること。

■ 予約確認

施設予約状況は前後1年分確認できること。

■ 登録

災害時やフォーラムなどに利用可能な掲示板の設置が可能なこと。

■ 画像認証

掲示板の投稿には画像認証を利用可能なこと。

■ 投稿制限

メールアドレスやURLの表示を制限できること

投稿禁止語句の設定が可能なこと。

拒否IPアドレスの設定が可能なこと。

■ 添付ファイル

添付ファイルの投稿が可能なこと。また、ファイル拡張子や容量の制限が可能なこと。

■ユーザー登録

氏名やメールアドレス等を入力することで、サイトへの会員登録を行えること。

年齢や地域、職業などのユーザー属性を設定できること。

■パスワード

ログインパスワードを忘れた場合、登録メールアドレス宛に再設定用のURLを送付ができること。

■管理者

管理者による承認後、会員登録が完了する設定が可能なこと。

■登録情報

ユーザー画面から会員登録情報の編集、退会ができること。

■コンテンツ

会員のみ閲覧可能なコンテンツを作成できること。

ユーザー属性によって閲覧可能なコンテンツを設定できること。

■ 機能追加

プラグインなどを追加することにより、CMS本体のカスタマイズを行わずに機能を追加することができること。

プラグインの開発は他のベンダーでも行うことができること。